

平成27年度事業報告書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

学校法人 上宮学園

I 法人の概要

1. 建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することであり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の歴史はわずか120年であるが、その120年に至るまでの歴史は遙かに長いのである。法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の いたらぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ 澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ巢立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようですが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。小さなことにくよくよして、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおおのずと清明で、正々堂々としているものです。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもっと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求める、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずから身に備わり、その真価を発揮するという意味です。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間ほんらいの生き方と「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を多くの若者に分け与えて、120年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

2. 法人の沿革

上宮高等学校は、明治23年（1890）浄土宗を母胎として創立された。以来120年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、永い歴史の中で培われてきた伝統を大切に、きめの細かい教育を推進している。

明治23年（1890年）大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く

明治34年（1901年）学制変更により修業年限4年を5年に変更

明治39年（1906年）中学校と同等の認定

明治45年（1912年）財団法人上宮中学校設立許可

昭和4年（1929年）鉄筋本館竣工

昭和10年（1935年）定員1250名認可 鉄筋新校舎の建設案成る

昭和14年（1939年）新校舎（現2・3・4号館）竣工

昭和22年（1947年）新制上宮中学校発足

昭和23年（1948年）新制上宮高等学校発足

昭和26年（1951年）学校法人上宮学園へ組織変更認可

昭和36年（1961年）校祖750年遠忌式

昭和38年（1963年）高等学校志願者5259名に達す 5号館竣工

昭和42年（1967年）中学校の募集停止 太子町鉄骨校舎着工

昭和44年（1969年）太子町校舎高1授業開始

昭和49年（1974年）高2 2コース制実施

昭和54年（1979年）太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式

昭和56年（1981年）総合体育館竣工式 90周年記念式

昭和59年（1984年）上宮高等学校6号館竣工

昭和60年（1985年）上宮中学校復活開校（於、太子町）

上宮中学校体育館竣工

太子町学舎体育館竣工

昭和63年（1988年）上宮高等学校太子町学舎開設

平成1年（1989年）上宮高等学校太子町学舎校舎竣工

平成2年（1990年）創立100周年記念式典

平成3年（1991年）上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立

平成5年（1993年）上宮中学校が上宮太子中学校へ変更

上宮中学校開校（於、天王寺）

上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝

平成22年（2010年）上宮学園創立120周年記念式典

平成23年（2011年）校祖800年大遠忌

上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化

平成24年（2012年）上宮太子高等学校男女共学化

平成26年（2014年）上宮高等学校3年 平岡卓

冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典

3. 設置学校（所在地・コース等）

i 上宮高等学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
全日制 普通科 パワーコース・英数コース・プレップコース

ii 上宮太子高等学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
全日制 普通科 3カ年特進コース・3カ年総合進学コース

iii 上宮中学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
特進コース・アップコース

iv 上宮太子中学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
特進コース・総合進学コース

4. 校地・校舎面積

名 称	校地面積 m ²	校舎面積 m ²
上宮中学校・高等学校	47,934	22,906
上宮太子中学校・高等学校	30,338	12,436
合 計	78,272	35,342

5. 入学定員

名 称	学則定員（各3学年合計）
上宮高等学校	2,520
上宮太子高等学校	840
上宮中学校	480
上宮太子中学校	240
合 計	4,080

6. 生徒数・学級数

名 称	学年	生 徒 数	学 級 数
上宮高等学校	1年	709	18
	2年	683	21
	3年	703	21
上宮太子高等学校	1年	242	6
	2年	247	7
	3年	206	6
上宮中学校	1年	109	3
	2年	106	3
	3年	98	3
上宮太子中学校	1年	35	2
	2年	51	2
	3年	42	2
合 計		3,231	94

7. 役員・評議員

i 役員（定員 理事：7名、監事：2名）

理事7名（うち、理事長1名、理事6名）

監事2名

理事長 安井良道 理事 田中裕史（上宮中学校高等学校長）
 齊藤善之（上宮太子中学校高等学校長）
 山田隆章（法人事務局長）
 末吉友一（評議員互選）
 田中信道（浄土宗僧侶）
 鶴野重雄（浄土宗・知恩院責任役員）

監 事 藤並光憲・小笹憲雄

ii 評議員（定員15名）

評議員15名（うち、理事兼任7名）

末吉友一（学識経験者） 神田眞晃（浄土宗僧侶） 川中光教（浄土宗僧侶）
 水谷川源昇（学識経験者） 横倉廉幸（卒業生） 山縣真平（法人職員）
 寺澤久弥（学識経験者） 松井保（法人職員） 原田和成（法人職員）

8. 教職員

教職員数	専任教員	常勤講師	非常勤講師	事務職員	計
上宮高等学校	82	18	60	21	181
上宮太子高等学校	27	11	23	6	67
上宮中学校	17	4	7	1	29
上宮太子中学校	9	6	6	1	22
合計	135	39	96	29	299

II 事業の概要

平成25年5月より安井良道理事長・学園長が就任され、学園の再生、発展向上のために「三本の柱」を眼目にして取り組んでいくことになった。一は教育力の向上である。本学園の建学の精神を礎として教育力の向上を目指し将来に向けて有為な人材を育成することである。同時に教職員一丸となって互いの指導力を高めあうことであり、教科担当・担任・生活指導・進路指導・入試対策・或いは部顧問として切磋琢磨して研究工夫を重ね、綿密な連絡と計画を建てて一人ずつの生徒の学力向上のために全力をつくすことである。二は健全な財政を築くことである。学園は創立120有余年の歴史と伝統を基盤としての経済力の安定である。上宮太子中・高等学校では完了したが、上宮中・高等学校は平成26年耐震診断をうける。本館(1号館)・2・3・4号館は重厚な建物ではあるが、築70年以上過ぎ診断料と共に多大な新築建造費が予想される。そうした中で、教職員には安定、安寧の生活費と戦意喪失なきよう安心感を与えなければならない。三は民主的な運営である。まず生徒が喜んで本学園に入学してよかったという学ぶ喜びに気づかせているか。管理職と教職員の意志の疎通を欠いていないか。職員会議が民主的に運営され、自己啓発の場となっているか。保護者・同窓会・教育後援会等、学園との関係が両立しているか。生徒と担任又は授業担当者や部顧問との関係が円滑かつ信頼や尊敬の念で結ばれ、体罰やいじめについてその温床の絶無を期することが大切であるという基本精神「三本の柱」を通じ学園の事業運営は進められていくことになる。

1. 法人

第1回 日時 平成27年5月27日(水) 午後1時30分～午後4時30分

会場 上宮学園法人理事室

議案第1号 平成26年度事業報告について

議案第2号 平成26年度決算(案)について

議案第3号 平成27年度予算(案)について

議案第4号 耐震対策委員会報告について

議案第5号 その他について

第2回 日時 平成27年10月27日(火) 午後1時30分～午後4時30分

会場 上宮学園法人理事室

議案 議案第1号 耐震対策委員会報告について

議案第2号 平成27年度中間報告(財務面・教務面)について

議案第3号 その他について

第3回 日時 平成28年3月31日(木) 午後1時～午後4時30分

会場 上宮学園法人理事室

議案 議案第1号 法人役員人事について

議案第2号 平成27年度補正予算案について

議案第3号 平成28年度事業計画について

議案第4号 平成28年度予算原案について

議案第5号 上宮中学校高等学校・上宮太子中学校高等学校の近況報告について

2 上宮高等学校

i 執行部関係【上宮中学共】（平成 27 度）

校長	田中裕史	中学教務部長	末金和夫
高校教頭	山縣真平	生活指導部長	福井 篤
中高一貫教頭	殿井鉄夫	進路指導部長	畑中 広
高校教務部長	栗栖有文	入試対策部長	相本秀彦

ii 広報関係

① 学校説明会

入学希望者を対象に 9 月から 12 月にかけて、月に一度、計 4 回の説明会を実施している。参加者数は増えているのだが、説明会のあり方について考えなければならない時期に来ている。問題点もいくつか考えられるので、次に述べてみる。

まずは説明会の時間の設定である。土曜日の午後 3 時から 5 時という時間をできれば 2 時から 4 時に実施したい。中途半端な午後 3 時からの説明会の実施はあくまでもこちらの都合である。また説明内容も 1 時間が妥当である。他校の説明会と比べれば明らかに長い。配布物に関しては同窓会誌を配布したが、今年度も希望者だけに配布することを考えている。相談コーナーの担当者は保護者が来られてから準備をするのではなく、あらかじめブースに着席して対応していただきたい。ブースがあるにもかかわらず、担当者がいないことがよくある。

② 塾対象説明会

従来は北会場、南会場と同時期に 2 回の説明会を実施してきたが、ここ数年はシェラトン都ホテル大阪で 7 月第 2 金曜日に一度だけ実施している。懇親会は実施せず、説明会終了後に個別相談コーナーを設けて対応している。説明会の時間が少し長いという声があり、調整に苦慮している。

③ 私学展

毎年多数の来場者が見込まれる中で、上宮中学校・高等学校のブースを訪れる人数は共学になって増加の一途をたどっている。説明のブースに来て、一通りの話を一人ひとりにしていくのはロスが多いので、昨今は別会場にて上宮の概略を聞いてから、希望者はブースに来てもらうという方式を取っている。比較的スムーズに対応できるようになったと思う。ただ毎年、開催時期が夏のお盆（今年度も 8 月 13・14 日）であり、スタッフが揃わないことで常に困っている。他校のスタッフを見てみると 20 人～30 人体制で臨むのが普通になっている。宗門関係の学校において開催時期がお盆であるというのは辛い。せめてこの私学展の勤務が休日扱いでの出勤という形にしてもらわなければ、ますますスタッフの選定は困難を極める。

④ 特筆すべき点

高校入試も決して楽観視できない状況である。共学とアクセスと制服とに助けられて集まっているといっても過言ではない。専願者の減少傾向（特にパワー、英数）、大阪府の就

学支援が今後どうなるかわからないことを考え、広報のあり方を再度、検討しなければならない。

iii 進路関係

1. 大学等進学状況の概況

平成 27 年度共学 3 期卒業生は 703 名（前年度は 698 人）。学年全体の現役合格率（就職者 6 名を除く進学希望者 697 名に対する、4 年制大学・短期大学・専門学校合格者の割合）は 91.2%（前年 87.2%）で、近年にはない非常に高い割合となった。

その要因として、全国的な現役志向の強まりの中、本校においても「国公立型コース」生徒の浪人生が全般的に少なかったことと、理系生徒の堅実な受験の結果として現役合格率が上がったことが見て取れる。唯一、パワーコース理系クラスのみは、あくまでも国公立大学合格を志望する生徒が多く浪人生が多かった。

その他の特徴としては、国公立大学合格者が減少した。一方、看護医療系を中心として専門学校への進学者が増えた。また、企業就職者が 6 名にのぼったがこれも本校としては近年にない状況である。

2. 大学別合格者数について *以下の合格者人数は全て「大学別実人数」

1) 国公立大学合格者数は現浪合わせて 27 名（前年 41 名）であった。減少の主要因として、国公立型クラスの在籍者数の減少があげられる。和歌山大学（3 名）、大阪教育大学・高知大学（各 2 名）、神戸大・東京外国語大（各 1 名）等に合格した。

2) 私立大については以下に「現役」合格者の多い順に記す。*（内は合格率）

- | | | |
|---------------------|---------------------|-------------------|
| ①近畿大 92 (合格率 45.8%) | ②摂南大 62 (51.7%) | ③関西大 55 (37.2%) |
| ④龍谷大 46 (44.7%) | ⑤桃山学院大 28 (59.6%) | ⑥大阪経済大 23 (39.0%) |
| ⑦関西外国語大 23 (62.2%) | ⑧追手門学院大 (23 (62.2%) | ⑨京都産業大 20 (43.5%) |
| ⑩佛教大 19 (70.4%) | ⑪同志社大 17 (44.7%) | ⑫甲南大 16 (34.0%) |
| ⑬関西学院大 15 (42.9%) | ⑭畿央大 14 (40.0%) | ⑮大阪産業大 14 (87.5%) |
| ⑯武庫川女子大 14 (70.0%) | ⑰立命館大 14 (23.0%) | ⑱甲南女子大 13 (86.7%) |
| ⑲四天王寺大 12 (85.7%) | ⑳大阪工業大 11 (34.3%) | |

等、私立大学に関して、現役生のみでの大学別合格者実人数の総合計は 757 名。

また、短期大学 19 名、専門学校 48 名であった。

3. その他の進路指導部の取り組み

1) 大学合格講座（高 3 対象）・大学合格準備講座（高 2 対象）の運営の継続。

平成 26 年 6 月から立ち上げた「放課後の校内予備校」である「大学合格講座」が、2 年目に入って次第に制度も整い、講座のラインナップも充実してきた。

平成 27 年度には、高 2 対象 1・2 学期に、英語・数学・国語の 3 教科で 8 講座、3 学期には理科・社会を加えた 5 教科 22 講座を立ち上げた。

また、高3対象1学期に5教科26講座を、2学期に5教科29講座、3学期に「直前講座」として5教科25講座を立ち上げて運営している。

本講座の校内での認知度も徐々に上がり、多くの生徒の申し込みを受けて赤字を計上することなく順調に動き始めた。これらの講座の成功が、生徒と保護者様の本校の学習指導に対する満足度の向上と、今後の大学合格実績向上につながることを期待される。

2) 平成27年5月から高2生徒対象にスタートした「ネイティブによる修学旅行英会話講座」が11月で完結した。同時に平成27年9月から高1生徒対象に、高2の11月までの継続講座として並行開講することができた。今後は高1生徒対象に9月から1年間の開講を継続する予定である。

この講座は本校のグローバル教育推進の一環として試行的に立ち上げたものだが、同時に本校がネイティブ英語講師を通年で採用した初の試みとなった。

結果は上々で、これを機に平成28年4月より上宮中学の1年生の英語授業の6時間中、ネイティブ英語講師が4時間を単独で受け持つことになった。

3) 平成27年4月から「英検対策講座」を開講した。中学3年生から高校3年生対象に「4級・3級・準2級・2級」の4講座を、英検の試験に合わせて年間3回開講している。なお、平成28年4月からは受講資格を中学1年生から引き下げることにした。

4. 「アクティブラーニング」研究の開始

1) 文部科学省の「高大接続システム改革会議」を受けて、我が国の大学入試制度や教育制度が

大きく変わろうとしている。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を学力の3要素と定義し、それらを培う教育の改革と、それらの到達度を測る入試制度の改革が喫緊の課題となっている。その中で、新しい学びのあり方のひとつとして、文科省が「アクティブラーニング」の視点からの授業改善を指示している。

具体的には、生徒が教師から講義形式で一方向的に知識伝達される受動的な教育から、生徒自身が主体者となって能動的に学ぶ教育方法の積極的導入が言われている。

本校でも平成27年度から「アクティブラーニング」研究を始めたが、研究・推進する部署の一つとして進路指導部は情報収集と教職員研修会の企画を担うことになった。

まずは平成28年3月に、本校卒業生でもある羽根拓也氏（株式会社 アクティブラーニング代表）を招いて第1回教職員研修会を実施した。今後も定期的な研修を実施することで本校教職員の授業力・教育力の向上を目論みたい。

iv 入試関係

入試結果については上記の④のところでも述べたが、生徒募集定員についてそれを上回る募集ができていることは上向いている点ではある。

ただ、高校入試も決して安穩としていられない状況である。共学とアクセスと制服に助けられて集まっているといっても過言ではない。大阪府の就学支援が今後どうなるかわからないことを考えると2年先までにパワー、英数コース、プレップコースの再編をもう一度やり直さなければならない。シラバス等（外部から閲覧できないの状態）がホームページにアップされ、各コースの現役合格実績も含めて公開しなければならないことは必至であり、そのためにも学校側はシラバスの内容（これで希望の大学に合格できるのか）を詳細にチェックし、広報のあり方を再度、検討しなければならない。

v 施設整備関係

本年は主に総合体育館を中心に改修工事を実施、総合体育館の耐震補強工事、同アリーナ・プール室の照明器具をLEDに交換工事、1号館1階南北応接室の照明をLEDに交換工事を行う。

総合体育館の耐震補強が終了したので、プール機械室の整備、視聴覚教室の音響映像設備の整備を実施した。

主な安全対策の工事としては、弓道場の矢の跳ね返りによる校外への飛び出し防止工事を実施した。

※主な工事

- 1－総合体育館耐震補強工事
- 2－総合体育館アリーナ・プール室照明設備のLEDへの交換工事
- 3－1号館1階南北応接室の照明をLEDに交換工事
- 4－視聴覚教室の音響・映像装置の操作盤の整備
- 5－1号館屋上の弓道場、安全対策補強工事

1. 教学関係

内規改定による卒業・進級の厳格化

一昨年従来の本校の卒業・進級に関する内規の規定の内、成績に関する規定と出席に関する規定を比較すると、近年見直しを進めてきた成績に関する規定をさらに厳格化し、従来、評定1（5点法）が2科目までなら、卒業・進級判定会議の議によっては救済措置の道が開けていたものを、1科目のみなら救済措置の可能性があるとし、反対に2科目以上ならば、原級留め置きとなることとし、決定後直ちに生徒保護者に周知した。

結果として、26年度の卒業・進級判定会議に審議対象となる生徒は減少し、下位層の成績向上に直結する結果となった。さらに27年度には、高3卒業判定で問題となる生徒が皆無となる改善が見られた。さらに内規の見直しとして、定期考査の厳正さを担保するため、本校独自の考査における体調不良で考査開始後15分以内であれば欠試を選択できるといういわゆる15分ルールを廃止することを決定した。28年度よりただちに適用していくこととしている。高校受験における受験生の相対的な学力上昇と学業に対する積極的な姿勢の入学生の増加と相まって、よりよい学風が形成されつつあると思う。

2. 受験対策

近年、他校でも取り組みが多い校内予備校への取り組みとして、3年生対象の大学合格講座を2学期から、2年生対象の大学合格準備講座を3学期から始めた。講師は本校勤務の講師の中で予備校との兼任の先生方と予備校の講師の先生方からなり、平日午後5時15分の終業後に2時限ずつの時間割配当で、有料講習をおこなうものであり、生徒保護からも大きな反響があり、実際の大学入試結果に好影響を与えたと考えられ、27年度からは対象を高2にまで広げている。また、土曜日には放課後に英検対策講座や修学旅行英会話講座も実施しておりさらに内容の充実を図っていくこととしている。

3. 語学研修

25年度までの状況は、高1・2年対象の夏休みのカナダ語学研修とイギリス語学研修の2種類がほぼ同時期に企画されていた。カナダ語学研修は3コースに分かれるが、1～2名程度がレジデンス（寮）での宿泊、その他大半の20名程度がホームステイで毎日教室に通学するもので、定員をオーバーするほど好評である。また、学校ではオープンといわれる各国の生徒と一緒にの教室での学習である。それに対してイギリス語学研修は全員レジデンス（寮）で、部屋も教室もオープンで様々な国の生徒と共同生活を行うもので、実際の参加者には好評であるが、希望者が少なく、25年度は実施中止となり、26年度からは募集停止となった。

イギリス語学研修に替わって、26年度新たに企画したのが、フィリピンのセブ島の日系語学学校に滞在する英語研修である。英語の学習とアクティビティや自由時間といったこれまでの語学研修と異なり、原則外出室禁止で午前中はマンツーマンでの英語特訓という

特徴があり、英語力の強化に特化した研修である。生徒にとっては参加を決断するのにハードルが高く、参加者は2名に止まったが、帰国後の感想極めて好印象で、セブ島語学研修自体マスコミの報道が増えており、27年度は参加者が9名と増加した。28年度はこれまでよりも目的を明確化させるため、英検のステップアップを図るための語学研修という具体的な内容変更もおこない、すでに実施が決定している。

春休みには、中3と高1対象にオーストラリア語学研修を実施している。全員がホームステイで滞在し、英語学習は本校生徒のみのクローズで行われている。アクティビティが充実しておりオーストラリアの大自然とふれあうプログラムで英語環境に親しむことを目的としている。

vii 課外活動関係

- ・卓球部 インターハイ・選抜大会 出場
- ・ソフトテニス インターハイ・選抜大会 優勝
- ・フェンシング インターハイ 出場

3. 上宮太子高等学校

i 執行部関係

校 長 齊藤 善之	中学教務部長 甲斐 龍二
高校教頭 寺澤 久弥	生徒指導部長 佐々木 裕司
中学教頭 甲斐 龍二	進路指導部長 漁野 篤史
高校教務部長 淵 昭嘉	入試対策部長 宮本 卓弥

ii 広報関係

① 学校説明会

オープンキャンパス	8/29	8/30	9/6	9/19	9/20	参加者数	127名
第1回入試説明会	10/03		参加者数	77組	138名		
第2回入試説明会	11/07		参加者数	93組	173名		
第3回入試説明会	12/05		参加者数	167組	303名		
第4回入試説明会	12/12		参加者数	126組	223名		

② 塾対象説明会 7/16 参加者数 165 塾 206名

③ 私学展（OMMビル） 8/15 8/16 参加者数 153名

④ 特筆すべき点

校内における説明会においては、昨年よりも参加人数は減少した。大阪府公立高校の入試制度改革や少子化の影響が考えられる。説明会参加者数と受験者数には相関がある。説明会参加者数を増加させるため広報活動を強化していく。校内や校外における個別相談で対応した受験生の定着率はよい。一組一組により詳しく丁寧に対応することを心掛けた結果であると思われる。

iii 進路関係

【大学合格者数】

卒業生数が40名程減少したにもかかわらず、全体の合格者数には変化がなかった。

今年度のべ374名（卒業生数205名）、昨年度のべ375名（卒業生数242名）

○国公立大学

昨年度入試と比較して、現役生と過年度生を合わせた合格者数は6割増加した。また、現役生のみで考えると、合格数は3倍になった。

国公立大学合格者数：

今年度13名（現役13名・過年度0名）、昨年度8名（現役4名・過年度4名）

○私立大学（関西8私大）

昨年度入試と比較して、関関同立の合格者数は10名程、産近甲龍の合格者数は20名程増加した。その結果、関西8私大合わせた合格者数は30名程増加した。

今春の卒業生の特徴として、公募推薦、一般入試に挑戦する生徒が多く、また、後期試験まで受験する傾向が強く出た。

関西 8 私大合格者数

今年度 87 名（関西 16 名・関学 1 名・同志社 5 名・

京産 2 名・近畿 46 名・甲南 3 名・龍谷 14 名）

昨年度 59 名（関西 8 名・関学 1 名・同志社 3 名・

京産 3 名・近畿 28 名・龍谷 16 名）

○26 期生の進学状況（卒業生数 205 名）

4 年制（6 年制）大学進学者数…163 名 短期大学・短期大学部進学者数…6 名

専門学校進学者数…27 名 進路未決定…9 名

（内訳：総合進学文系 6 名、総合進学理系 2 名、特進理系 1 名）

現役合格率 97.1%（昨年度 97.5%）、現役進学率 95.6%（昨年度 96.6%）

連携・指定校推薦入試枠 510 名分のうち、受験者数 32 名（総合進学コース在籍者の 17.7%）

※なお、昨年度と比較すると、連携・指定校推薦入試利用者（受験者）数は 9 名減少。

昨年度は関関同立・産近甲龍を含めた連携・指定校推薦入試枠 523 名分中、利用者（受験者）数は 41 名（総合進学コース在籍者の 19.0%）

総合進学コース在籍生徒のうち、

1 名（実数）が関西大学に一般入試で合格。

1 名（実数）が同志社大学に一般入試で合格。

1 名（実数）が京都産業大学に一般入試で合格。

6 名（実数）が近畿大学に公募制推薦・一般入試で合格。

3 名（実数）が龍谷大学に公募制推薦・一般入試で合格。

【進路指導方針】

入学当初より、進路指導 LHR を通して、大学・学部・学科について調べ、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。総合進学コースの生徒にも、公募制推薦入試や一般入試を中心に大学進学をめざすように指導している。

生徒の将来とともに、学校の将来を見据えた取り組みを今後も継続していきたい。

○次年度の取り組む内容（重点目標）

- ・安易な考えによる連携・指定校推薦入試からの脱却（総合進学全体の 20%未滿）
- ・模擬試験の有効活用
- ・家庭学習の充実（スタディサプリの活用、家庭学習時間の増加）
- ・女子生徒の希望進路を見据えたカリキュラムについて検討
- ・学力のともなった理系選択者数の増加
- ・6ヶ年教育を活かした大学情報の発信

iv 入試関係

「共学」も周知され、女子比率も安定しつつある。「特進コース」においては男女比が1 : 1となった。一方で、「総合進学コース」における女子の比率が低下しつつある。あらゆる角度から情報収集した上で原因を精査し、各部署間の連携を強化し、コースの特色を錬磨して、女子志願者にも一層魅力を発信することか出来るよう改善努力を重ねる。今年度の入試は昨年と比べ合否ラインが高くなった。受験生の全体的な成績も上昇傾向にある。安定した学力をもつ受験生が増えてきていると感じた入試となった。ただし、受験者数は減少傾向にあるので、今後の広報活動を一層強めていかなければならない。

v 施設等整備関係

食堂の開設、及び ICT 機器の整備（卒業記念品）また、校舎・設備の維持管理のための補修改修を行った。

- ・食堂開設及び、食事スペースとしてのアトリウムの改修・テーブルパラソルの設置。
また、防犯カメラ増設工事
- ・体育館照明の LED 化
- ・非常放送設備のリニューアル
- ・電気設備の総合点検
- ・製本・丁合機のリニューアル（上宮プロジェ寄贈）
- ・ICT 教育機器導入の一環としての電子黒板機能を持ったプロジェクターを 3 台、卒業記念品として整備

vi 教務関係

① 学校評価

各部署の実施計画と授業アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4 月までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10 月末までに中間評価、3 月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言を頂く形で実施した。授業アンケートについては、11 月に実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、その後の授業に反映させるように行った。前年度の総括（各部署の報告書）についての学校関係者評価委員会は 9 月に実施した。

② 高大連携

○現状について

関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学、大阪樟蔭女子大学の 5 大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。また、近畿大学経済学部にて、数学のリメディアル教育担当教員を 1 名派遣している。

○今後について

共学化に伴い、いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつつ、本校としても長期間にわたり、責任のある関係を保つ

ことができる大学に絞って、今後の高大連携を考える。

③ 教職員研修会

昨今の私学を取り巻く厳しい環境のなかで、私立学校として、法然上人の仏教精神に基づき『建学の精神』を掲げる上宮太子中学校・高等学校。そこで日々働く教職員が、「意識の改革レベルの向上」・「私学人としての現状認識と共通理解の醸成」・「他校の情報収集と対策の研究」等を目的に、機会を求めて共に研鑽を積むことを重ねている。

教職員一人ひとりが、そして、教職員総体として、「生徒・保護者のため」・「所属する職場組織のため」何が出来るか、どのように貢献できるかという視点で、平成 27 年度は、各学期 1 回、年度間に計 3 回、全教職員を対象に外部講師を招いて教職員研修を実施した。教職員の当事者意識の確立、研究心の錬磨、技量・モチベーション向上に繋げている。

<1 学期・7 月 2 日>

・テーマ「大学入学者選抜改革の方向性と中高での学習指導のヒント」

(①教育改革の全体像 ②大学入学者選抜改革の方向性

③各大学の個別選抜改革の方向性と現状 ④高校教育改革の方向性)

講師：ベネッセコーポレーション 橋本 翼氏

<2 学期・12 月 3 日>

・テーマ「アクティブラーニング導入に必要なこと」

(AL は、今の授業の延長線上にある)

講師：授業学研究所 所長 大矢 純氏

<3 学期・3 月 1 日>

・テーマ「『当事者意識～Sense of Ownership～』の確立」

(諸問題に遭遇した時、自分が出来る事・自分だから成せる事は何か)

講師：ブレインアカデミー 西條 弘氏

④ 特筆すべき行事

・【海外語学研修】

<ニュージーランド語学研修> 3 月末実施 対象学年 中 2～高 2 希望制

語学力の向上および多文化理解を目的としたホームステイ型の研修。

実習期間は 2 週間で、生徒満足度 95%と非常に高く、その結果、リピート率も高い。

(平成 27 年度 参加者 24 名)

<イギリス語学研修 (ACEプログラム)> 7 月中旬実施 対象学年 中 3～高 3 資格あり

国際感覚の習得、プレゼンテーションスキル・チームワークやリーダーシップスキルの育成の向上を目的としたパブリックスクールでの寮滞在型の研修。

参加資格は英検 2 級 1 次試験合格以上。クリアした生徒は、学園から一部奨励金を受け、学園・学校の代表としての誇りをもって、研修に参加する。参加前には 10 時間以上のネイティブ講習会等を実施する。

(平成 27 年度 テロの問題により中止 現時点で 2 級合格者 2 名)

・【聖徳書道展】

平成 27 年度で第 8 回の実施となる上宮太子主催の文化活動である。伝統文化の発展と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の心を広め、育成することを目的として開催している。例年、浄土宗、太子町・太子町教育委員会、毎日新聞社の後援をいただいて、小中高生および一般の方々から 6000 点を越える応募作品を得て、10 月 11 日（日）・12 日（月・祝）両日に、上宮太子高等学校を会場として、入賞・入選作品を掲示、他の作品も展示し、第 2 日には入賞作品の表彰式も行われる。毎年、家族連れ等、多くの来校者を迎え、結果、学園・学校を広く知らしめる契機となっている。

vii 課外活動関係（優秀な部活動の結果を紹介。同好会の発足や、昇格も記入）

① 課外活動のあり方について

運動部：13、文化部：11、同好会：1（平成 27 年 3 月末現在）

中高で 7 割近くの生徒がクラブに所属し、それぞれのクラブの特色に応じて活動している。各クラブにおいて目標を達成する上の過程を大切に、礼儀や挨拶などを含めた人間教育に重点を置いた指導をめざし、学校全体の活性化をねらいとしている。

② 新規クラブ発足等の動きについて

平成 26 年 1 月 剣道同好会発足 平成 27 年 4 月 部昇格

平成 26 年 4 月 女子サッカー同好会発足

平成 26 年 9 月 家庭科同好会発足 平成 27 年 4 月 部昇格

平成 27 年 4 月 男子硬式テニス部・女子硬式テニス部が、
硬式テニス部から分離独立

平成 27 年 4 月 囲碁将棋部 休部

※平成 28 年 4 月より、吹奏楽・オーケストラ部から吹奏楽部に統合・改名する予定

viii 防災対策関係

大規模災害が発生した場合は、帰宅困難者によるさらなる混乱を防ぐため、生徒をすぐには帰宅させず、学校内で待機させるという考え方が主流になっている。そのため、学校側は、生徒が最低 2 日間、学校内で寝泊まりできる備えが必要となる。

また、学校の復旧だけでなく、地域の帰宅困難者支援、一時滞在者の受け入れ、避難所への物資の提供など、学校にできる被災者支援を行うことが、本校の信用を高め、地域貢献に繋がる。

（備蓄品内容 一人分）

朝食パン 2 日分 昼・夜 アルファ米 2 日分 飲料水 500ml 6 本

ミルクビスケット・クラッカー 保存用水 20 900 本 レスキューシート

（救助・救命 KIT）、 高校校舎 1 セット 中学校舎 1 セット

ix その他

- ①生徒会活動の一環として、上宮祭における献血活動に力を入れている。日赤より講師を招き、全生徒に対して献血に関する事前学習を行い、上宮祭当日まで呼びかけや、研究発表を通してたくさんの生徒、来校者に協力していただいている。

4. 上宮中学校

i 広報関係

1. 学校説明会

入学希望者を対象に9月から月に一度、11月まで説明会を実施した。説明会のスタイルは高校とほぼ変わらないが、平成25年度から体験学習会を6月、プレテストを11月に実施している。体験学習会の6月実施で興味関心を持った生徒が塾の夏の夏期講習に参加し、11月のプレテストを受験し、最終的に上宮受験という流れを狙っている。

2. 塾対象説明会

高校と内容は同じ

3. 私学展

高校と内容は同じ

4. 特筆すべき点

近畿圏にある私立中学校の入試は依然として厳しい。大阪府の私立中学受験者については、児童数が77,672名(27年度79,708名)、出願者数は24,709名(27年度24,948名)である。生徒を集めることのできる学校とそうでない学校の二極化が進んでいる。定員を充足できる学校の割合は、男子校で2/4(27年度2/4)、女子校で1/16(27年度3/16)、共学校で16/44(27年度18/44)である。

ii 入試関係

上宮中学校はレベル的に言えば特進で偏差値50、アップコースで45であるが、大阪の中学入試において、「初日午前入試」の偏差値帯別志願者数の分析では、本校が属する偏差値帯では前年度比92~93%となっている。本校では昨年度1次入試出願者113名に対し、28年度1次入試出願者は90名であり、前年度比80%となった。入学者も昨年度1次入学者95名に対し、28年度1次入学者は73名であり、前年度比77%となった。2次出願者は昨年度142名、入学者15名に対し、28年度2次出願者は150名、入学者13名となっており、1次入試の数が大きく影響し、全入学者は86名となった。昨年度心配した女子入学者については、28年度は22名で、27年度より2名増である。女子生徒の割合は27年度の22%から28年度は26%となった。

86名の入学者というのは3クラス編成がぎりぎりのラインであり、来年度に向けて緊急の対策が必要である。現在、1次入試と2次入試のみを行っているが、平成29年度入試においては、2日目、あるいは3日目に午後入試を行うなどの対策を現在検討している。

iii 教務関係

(1) 学校評価の総括から () 内は自己評価

- ① 行事の計画と実行・改善 (B)
- ② 教務係との業務の連携、運営 (A)
- ③ 教員間の情報の共有・連携 (B)

- ④ 中高教務の連携 (C)
- ① 会議や連絡会について (B)
- ② 教務会の円滑な進行について (A)
- ③ コース再編の目標の明確化、中学校での取り組みの具体化 (B)
- ④ 六カ年を見据えた教育の充実 (B)
- ⑤ 校外学習及び総合学習の充実 (A)
- ⑥ 中学入試の実施と諸問題の検討 (B)
- ⑦ 保護者会との協力 (A)
- ⑧ 部活動の充実に繋がる取り組み (B)

(総括)

以上の目標については、概ね当初の予定通り遂行できたが、④が不十分であった。今後、最大の課題となるのは、⑦、⑧、⑩であり、継続審議が必要となっている。⑦、⑧については、平成 28 年度中学 3 年生が高校進学時に英数コースを選択することが可能となり、さらに高 3 進級時には特進コースが、パワーコースと英数コースと一緒に国公立 I 型コースや国公立 II 型コースへの再編が行われる。それに向けての取り組みを平成 28 年度から始める必要がある。

また、⑩については、厳しい入試状況から脱却するためにも、教務としても入試対策部と共同した取り組みが必要となる。体験学習会やプレテストについても多くの児童を集める工夫が求められる。同時に、本校が六カ年一貫の学校として、特長ある教育を標榜できるような具体策の検討が急務となっている。

(2) 勉強合宿

①中 1 が 5 月に行う勉強合宿 (1 泊 2 日) は平成 24 年度から実施しているが、小学校から中学に入学して早々に定期考査に向けての学習方法を示すことは意義があり、今後も継続予定である。

②中 1、中 2 の特進コースが行う夏期勉強合宿 (2 泊 3 日) は 6 年目となった。自学自習が早くから定着することと、特進コースとして将来の進学に自覚を持たせる目的がある。

③中 3 勉強合宿 (2 泊 3 日) は、2 月に実施した。上宮高校入試問題も合宿 2 日目に実施したが、あまりよい結果を出せなかった。その動機付けをどのようにするのが今後の課題である。

(3) 中 3 修学旅行

9 月末に九州方面 4 泊 5 日であるが、平成 26 年度より長崎県を中心に実施している。27 年度もハウステンボスでの街頭英語、佐世保の米軍家庭におけるアメリカンホームステイなどの異文化交流、および南島原おける農家民泊、長崎市内における班別自主研修を実施し、好評であった。

(4) スキー実習

中 1、中 2 は全員志賀高原スキー場にて 3 泊 4 日で実施した。雪質もよく、宿舎でインストラクターの話聞けるなど、生徒の満足度も高かった。また、中 3 生は高 1 生と合同の

希望制で12月末に北海道でのスキー実習を実施したが、高校進学の前準備として実施する勉強合宿が2月に控えている事から、平成28年度は中止する予定である。

(5) 英語コミュニケーション講座

各学期末に行う全学年対象希望制の行事で、ベルリッツからネイティブを招いて実施。最近では生徒数の減少もあり、学年混合の形態もあるが、平成27年度3学期末は希望者が少なく、開講できなかった。

(6) 中3生対象のオーストラリア語学研修

3月末から4月初旬にかけての12日間。ケアンズにおけるホームステイを中心に、午前中は語学学校、午後はアクティビティからなる研修で、参加者からは好評を得ている。

(7) 中3生対象のイングリッシュキャンプ

平成26年度は8月に中3特進中心の希望制勉強合宿をしたことから人数が集まらず、催行できなかったことを反省し、平成27年度はイングリッシュキャンプと勉強合宿を同時に行うプランで実行した。人数的にも比較的多くの生徒が参加し、充実した行事となった。

(8) 上記以外の行事

① 中1：5月に冒険教育（日帰り）を実施

② 中2：8月に琵琶湖合宿（1泊2日）を実施

2月、3月に思春期教室（バルナバ病院で実施）を実施

③ 各学年主導の校外学習

1年：司馬遼太郎記念館、上町台地散策

2年：奈良公園付近において班別自主研修、文化祭で発表

iv 課外活動関係

◎柔道部

近畿大会 団体出場 個人 中2 齋藤 3位

全国大会 団体出場 個人出場

◎ソフトテニス部

全国大会 団体優勝

第27回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会出場

◎卓球

近畿大会 団体準優勝 個人 中3 西 3位 岸田 優勝

全国大会 団体出場 個人 中3 西 ベスト16 岸田 ベスト32

5. 上宮太子中学校

i 広報関係

学校説明会

第1回体験学習会	5/30	5/31	参加者数	86組
第1回入試説明会	7/18		参加者数	23組 52名
第2回入試説明会	8/22		参加者数	16組 30名
第3回入試説明会	9/19		参加者数	14組 26名
第2回体験学習会	10/11		参加者数	48組 100名
第4回入試説明会	10/24		参加者数	18組 33名
プレテスト会	11/15		参加者数	59組
直前対策説明会	11/28		参加者数	30組 59名

ii 入試関係

少子化現象及び私立中学受験者の激減の煽りを受け、生徒募集には苦勞をしている。今年度は、大学入試制度改革に対応すべく募集コースを「特進選抜コース」の一本化したことで募集定員を半減させたことも、入学者数減少の一因となった。反面、「特進選抜コース」として、資質のまとまった生徒を確保することにより、6年後には一層の大学進学成果を出すことが出来るよう、高校との連携を一層強化し、高校進級後に「中核」となる生徒を育成していきたい。今年度入試より、事前のエントリー会を設定した上で、「R方式」（自己推薦型）入試を導入した。受験者数は2名と少なかったが、受験生を多面的総合的に評価できる入試制度は、先の大学入試制度改革に通ずるものとなっている。大学入試制度改革に向けた本校の取り組みや進学実績の向上、近隣地域での中学受験熱の向上と追い風があるので、今後より一層積極的に広報活動を行っていく。

iii 教務関係

① 学校評価

上宮太子高等学校と同内容

② 高大連携

上宮太子高等学校と同内容

ガンバリシステムの導入

- ・学力のみならず、総合的な力を持った生徒の育成
- ・挑戦と達成の促進
- ・一人ひとりの生徒のよさや可能性を伸長
- ・一人ひとりの生徒の学習意欲の喚起

【評価項目】

大項目	学業		自己啓発		生活状況			資格		課外活動			
	模擬試験	ガンバリスト	図書室利用状況	自己啓発	出欠状況	生活態度	家事・自立	漢字検定	英語検定	生徒会活動	クラブ活動	ボランティア	コンクール

③ 教職員研修会

上宮太子高等学校と同内容

④ 特筆すべき行事

海外語学研修・聖徳書道展については上宮太子高等学校と同内容

学習強化合宿

中1学年 7月下旬（終業式後）に2泊3日の日程で合宿を実施（京都方面）

法然上人が修業された比叡山黒谷青龍寺を参拝（本年度は悪天候により中止）、
京都市内の宿所に入り一枚起請文暗誦・英単語等の暗記に取り組む。
また、合宿後の家庭学習の習慣を身に付けさせる。

中2学年 7月下旬（終業式後）に2泊3日の日程で合宿を実施（和歌山方面）

英数国を中心に学習強化・家庭学習習慣の定着を図る指導を展開する。
また、梅干しづくりの体験学習も実施。

中3学年 7月下旬（終業式後）に3泊4日の日程で合宿を実施（奈良方面）

英数国を中心に高校での学習を念頭に置いた合宿独自の授業を展開する。
家庭学習習慣を定着させる。

その他

早朝テスト 朝礼時に実施することにより、授業への姿勢を整えさせ、学習習慣の定着を図る。

外部模試 全国的なレベルでの成績の比較

特別考査 日頃の学習の成果を見極め、校内での実力を確認する。

漢字検定試験 中学卒業までに2級合格を目標。

英語検定試験 中学卒業までに3級合格を目標。

英検講習 学年枠を越えた級別講習を、通常の補習・講習に加えて、検定日前に集中実施。

授業内小テスト・個別指導・添削指導など教科の特性を加味した指導を実施。

職員室前に質問コーナーを設け、生徒がいつでも質問しやすい環境づくりを設定。

学校行事

普段の教室での“知性を磨く”学習とは違った形で学び、違った環境の中で「感激・感動」を味わって、“感性を磨く”学習としての学校行事。普段、「吸収」した知識を、いかにうまく「発揮」していくかに繋げたい。“交流”“体験”“手づくり”を重視した修学旅行・文化祭（本校では上宮祭）・体育大会の他、独自の行事も実施。

祖山参拝	浄土宗の総本山である知恩院へ新入生が入学の報告
御忌式	校祖法然上人のご命日に当たる毎月 25 日の第 1 限に学校長より法話
校祖誕生会	校祖法然上人のお誕生の日に式典と講話
正当御忌式	校祖法然上人の祥月命日に式典と講話
新入生オリエンテーション合宿	1泊2日 京都大本山百万遍知恩寺 仲間づくりと宗教体験を目標とする。
修学旅行	(九州方面) 立命館アジア太平洋大学での国際交流 長崎県五島列島の小値賀島での民泊体験
球技大会	生徒会起案で実施 生徒の自主性を養う。
体育大会	6 学年縦割りの色別対抗 学年枠を越えて先輩・後輩の関係性の確立。 上宮祭研究発表など多彩なクラス参加、または文化部の催し物を実施。
芸術鑑賞	夏期学習強化合宿 中1・中2は2泊3日、中3は3泊4日で実施 音楽、古典芸能、ミュージカル等「ホンモノ」の芸術に触れ、感性を磨くことを目的とする。
校外学習（二上山・葛城山・金剛山登山）	3 学年縦割り（体育大会時の色別チーム）で協力して頂上をめざし、最後まであきらめない忍耐力と協調性を高める。 3 年間で三山に挑戦する。（本年は葛城山）

iv 課外活動関係

上宮太子高等学校と同内容

v その他

特記事項なし